



👤 報道ステーション

6月28日(火)の報道ステーションで新座市が全国で紹介されました。コロナの影響で「財政非常事態宣言」を発出した、財政難に陥った市として紹介されたのです。

これはシティープロモーションの観点からすると、最悪のシナリオです。市民の福祉サービスが切り捨てられている実態が全国民に知られたのですから……。

6月議会の一般質問で「財政非常事態宣言はシティープロモーションの観点から言えば、非常にマイナスだ。取り消す考えはありますか?」という質問をしました。

並木市長は「扶助費、あるいは補助費の支出割合が他市に比べて大変高く、将来にわたって市民の皆様に対して、責任ある行財政運営を行っていくためには苦情の選択だったというふうに思います。」と、取り消す考えがないと答弁しました。

その結果がこれです。どんなにシティープロモーションに力を入れても「報道ステーション」には勝てません。

テレビの中では、介護で辛い思いをしている女性が、「補助金がカットされて本当に大変です。」と嘆いていました。ただでさえ介護で大変なのに、月に4000円の補助金をカットする市が新座市です。市民の血税を大型の区画整理や道路、新庁舎の建て替えには惜しげもなく注ぎ込み、財政非常事態宣言後も市長・議長・教育長の公用車には年間1600万以上もかけるのに、本当に大変な人達には出し惜しみする市に魅力を感じる人がどれだけいるのでしょうか。

高齢者・障がい者などの弱者は勿論、子ども達や子育て世代を応援する新座市であって欲しいものです。財政が非常事態に陥ったのは市民の責任ではありません。

そういう予算を組んできた市長とそれを認めてきた我々議会に責任があります。

全て選挙の結果ですが…… 👤

2021年6月30日発行



新堀時代の「たかやん塾」の子ども達です。子ども達の笑顔はいつの時代も変わりません。一緒に遊んで学んだ子達です。 👤

たかやんのプロフィール



本名たかむらともや
新宿区立西戸山中、
石神井高、北海道大
庭球部卒。中高大とテ
ニスだけに燃え、勉強
は全くしなかった。

それなのに、大学3年の冬。朝日新聞の「今学校で」を読み、突然教師になることを決意猛勉強。取ってなかった教職の単位を無理やり取ったのだから笑える。ドラゴン桜でいうと、完全に「拡散型」である。21年間、そんな担任に付き合ってくれた子ども達には今でも感謝している。

現在は石神3丁目の「たかやん塾」で小中高生と共に学び続けている。

好きな言葉は「一生懸命」「継続は力なり」
身長175センチ、体重69キロ、体脂肪率12.1%。血液型B型。写真は平松大佑県議。

栗原1丁目公園前の落差工が鮎の遡上を妨げているので魚道が作れないか相談しました。大佑議員の無茶苦茶速いフットワークに期待しています。頼りになる男です。 👤

③ 賛成討論

6月議会の最終日、共産党の小野大輔議員から「東京五輪開催を中止し、コロナ対策に集中することを求める意見書」が提出されました。僕は共産党の嶋田好枝議員の賛成討論に続き、賛成討論を行いました。

理由は単純です。子ども達は楽しみにしていた運動会や体育祭を中止されているのです。コロナのリスクが少ない子ども達が運動会や体育祭を取り上げられて泣いているのに国を挙げて「オリンピック」は無いでしょう。

東京都などは、小中学生81万人を動員しようとしているのだから、狂っているとしか言いようがない。「お前ら子どもは我慢しろよな。」「でも、盛り上げるためにお前らは見に来るんだぞ！」って、どの面さげていうのでしょうか。

そして、僕が心配しているのはアスリート達のワクチン接種です。副反応の可能性のあるワクチンを打たないと参加できない…そんなオリンピックでいい訳がありません。

ワクチンに疑問を感じているアスリートの中には不参加を決める人もいるでしょう。副反応に苦しみながらトレーニングをするアスリートもいるでしょう。国のコロナ対策が遅れ、現地入りがなかなかできず、コンディションが悪いまま参加するアスリートもいるでしょう。中にはワクチンを拒否するアスリートもいるでしょうね。日本での事前合宿が出来ない海外選手が殆どでしょう。

そういうオリンピックですから、勿論、日本の選手が圧倒的に有利になります。そういう不公平な中でのオリンピックに本当に意味があるのでしょうか。僕はそういう思いで意見書に賛成討論をしました。しかし、反対討論がないまま、その意見書は否決されました。自民党系のある会派はコロナ対策で密を避ける為に、一般質問では半数が議場から退席しています。それがコロナ対策だとしたら、超密になるオリンピックには賛成というのはどういうことなのか、自分たちの言葉で語って欲しいものです。オリンピックも結局は儲かるから強硬するんでしょう。ワクチンもオリンピックもそう考えると納得できますね。

③ 母の教え

2年前の6月24日、僕は最愛の母を失いました。僕は母から生きていく上で大切なことをいくつも学びました。そのいくつかを紹介したいと思います。

1. むやみに生き物を殺さない…小さい頃、庭の石の下にいる蟻をバットで潰していると「とんちゃんが蟻さんだったら、どんな気持ちになる？」と言われて、今でもテニスコートの蟻さんを潰せないのはそのせいです。

2. 「学校に行けることは幸せなこと」

家が貧しくて、学校の成績が1番だったのに女学校に行けなかった母さんの口癖でした。「勉強しなさい！」とは一度も言われたことがありませんでした。そのお陰で、今も学ぶことが楽しいと感じています。そして、決して**学歴で人を見ない**大人になりました。

3. ごみを捨てない…

超悪ガキでしたが、道路にごみを捨てたことはありません。それも母さんの教えでした。

4. 弱い者いじめをする人は嫌い。

母さんの言葉で、弱い者いじめができない子になりました。そして、弱い者いじめをする人間が大嫌いな大人になりました。

5. 人と比べない…

僕は三人兄弟ですが、母さんは三人を比べることがありませんでした。勿論、他の家の子と比べることもしませんでした。

6. ただ愛すればいい…**子どもは無条件でただ愛すればいい**。それも母の教えです。

下の写真は僕の最初の教え子達(15歳)五中の1期生と母さん(右端)です。僕が23歳か24歳、母さんが53歳頃だと思います。

